

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 094	提案機関名 JAかながわ西湘
要望問題名 湘南ゴールド 秀品果率の向上について(継続)	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 JAかながわ西湘では第2次地域農業振興計画に基づき、平成27年度 共販集荷量100tを目指し、栽培指導と普及拡大を行っている。 湘南ゴールドの秀品果率を下げる下記の果実の対策の試験研究を引き続きお願いしたい。 <ul style="list-style-type: none">・ 粗皮果・ 朱ほっぺ(こはん様症状)・ さび病果(JAで集荷できない)・ す上がり果(JAで集荷できない)	
解決希望年限	(①1年以内) <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	足柄地区事務所
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	湘南ゴールドの栽培技術の確立		
対応の内容等	ご指摘頂いた要望課題については、上記課題の中で取り組んでいるところです。粗皮果については、既存のカンキツ類と同様、果梗枝の太い上向き果に多く、それらは樹の上部や表層に多く見られることがこれまでの調査で分かっています。そこで、現在、上部3分の1及び表層を全摘果する実施し、粗皮果削減の可能性について検討しています。ス上がり果については、収穫直前に果肉が凍結することにより引き起こされることが原因であり、湘南ゴールドの氷点調査及び被覆資材による低温抑制等について検討しています。さび病果については、湘南ゴールドさび症果から分離した炭疽病菌の接種、病徴の再現と菌の再分離による原因特定、症状の抑制に有効な薬剤の散布時期と種類を検討しています。こはん様症状については発症の詳細と原因が不明です。まずはこはん様症状の原因について検討していきます。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			